

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年 1月 3日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	マギル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員		4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

マギル大学はカナダ東部のケベック州の州都、モントリオールの中心部にある大学です。ケベック州はフランス語が主要言語ですが、マギル大学では英語が教育言語となっています。カナダ国内では1位とみなされている大学で、医学や法学、政治学といった分野がとくに有名です。

留学した動機

大学入学前から留学してみたいと思っていたことに加えて、何回か短期留学に行く機会があったことから、1か月以下の短期の留学だけでは経験できることなどに限界もあると感じ、全学交換での留学を希望するようになりました。中でもマギル大学を選んだのはフランス語選択であったためケベックに魅力を感じたこと、前年に留学していた友人から勧められたこと、政治学など社会科学の分野で有名なことなどが理由です。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	9月~	2017年	12月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部4	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	学部4	年生の	3月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			71	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			3	単位
	留学後の取得(予定)単位			16	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

本来は1年前の全学交換に応募し大学3年時に行く予定であったが、面接日程が合わなかったため、4年時に応募。就活との兼ね合いもあり1学期間にしました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

人気の授業、大学の公式の寮等はすぐ埋まってしまうので手続きは早め早めに。また、自分は英語能力の証明の提出に関していき違いがあり1回大学側にapplyを取り消されたのですが、メール・電話をして説明したところ問題なくapplyできました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

1学期間のためビザ・study permit等は不要でした。アメリカに行く際などはカナダに再入国するために必要なため大学からのpermission letterを印刷したのを持って行きました。1年間留学する場合は連邦とケベック州の許可証がそれぞれ必要であり、手続きにも非常に時間がかかるため困っている・間に合わず入国を遅らせる人もかなりいたようです。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし、風邪薬など常識的な範囲で持って行きました。風邪は実際に留学先で引いたので役に立ちました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大側の強制加入のものとマギル側で強制加入のもの両方に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部には留学許可を提出し、面談等も行いました。試験に関しては帰国後に履修希望届を提出すれば去年以前に履修して単位を取得しなかったものに関してのみ試験を受けることが可能とのことでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語:IELTS 7.5 フランス語:初級者レベル
マギル大学は基本的に英語の大学なのでそれで困ったことはないのですが、出発前にもう少しフランス語を復習する・フランス語の会話書を持って行くなどすればよかったとは思いました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

一人暮らしをしたことがなかったため、調理には苦労しました。調理をあまりしたことがない人は出発前に少し調理できるようになっておくといいと思います(笑)。また、取る科目を完全に固めていて変更するつもりもないならば、その科目に関する日本語の本も持って行くと授業の内容を理解する・レポートを書くなどの上で助けになると思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
History of Canada 1914~1945	3				
Introduction to Quebec Studies	3				
Suspect minorities of Canada	3				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

取っていた授業はどれも週に2回あるものでした。火曜木曜と週末が空いている日だったので、基本的にそこで readings や宿題をする、というスタイルでした。定期的にレポートが課される授業ではその度にレポートの範囲を否が応でも読みなおすので、それが復習になっていました。授業そのものにおいては、やはり発言やグループディスカッションはある程度求められるものの、思ったよりは少なく、東大における意欲的な授業の方が多いのではないかと感じられました。これは授業や学部によってかなり違うようで、Faculty of Managementの授業ではグループワークがかなりの部分を占める、という話も聞きました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

最終的に3科目・9単位履修しました。1科目について週に授業が2回ありました。全授業英語ということを考えるとこれでも十分な量でしたが、もう1科目、語学の授業が何かを取ってもよかったかもしれません。週当たりの学習時間は、15～30時間ほどでした。特に学期末の試験直前・レポートの提出が重なった時期は深夜まで勉強しました。

④学習・研究面でのアドバイス

最初の2、3週間は履修訂正期間なので、当初は枠がいっぱいで取れない授業も場合によっては取れるようになります。自分も履修訂正期間に取る授業を変更したため当初の履修計画とは変更になりました。履修訂正期間が終わるとその授業を取るのをやめた人が教科書を安く売ろうとするので、教科書を買うのはそこまで待つのもいいかもしれません。学習において一番つらいのはやはり毎回のreadingの量がかかり多く、さらに英語であることからかなり時間がかかると思っています。計画的に読む、重要なところと重要でないところでメリハリを付けるなどしていきいと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

意外と議論や授業よりも日常会話の方が「英語がfluentではない」と感じさせられる機会が多かったです。ただ、英語が上手くないからと発言を躊躇するよりも下手でも積極的に発言した方がいいとも感じました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の提供する寮は留学生への割り当てが少なく一瞬で埋まってしまったので、La Marqという民間寮を選びました。家賃は月839\$でした。1人用ベッドルーム×5に共用のリビング・キッチン・バスルームがついている形式でした。設備等に問題はなかったですが、少々割高なので1年間行く人はルームシェアの方がいいかもしれません。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

モントリオールは冬が厳しいことで有名で、10月末・11月頃から既にダウンが必要な寒さでした。マギル大学・住んでいた寮共に市の中心部にあったのでそれほど歩く必要はありませんでしたが、それでも大学に行く・スーパーなどに行く間寒さはつらかったです。お金に関しては、カナダはキャッシュレス社会なので基本的に日本のデビットカードを使っていました。カナダの銀行に口座を作ってそのデビットカードを使うという選択肢もあります。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

モントリオールは治安がよく、特に問題を感じたことはありませんでした。医療機関なども受診しなかったので事情についてはあまりわかりませんが、マギル大学側の保険に指定医療機関があるので、そこを受診するのがいいと思われます。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

奨学金は家賃+通信費に充てていたもので、生活費は仕送り月7万+自分のお金3～5万程度でやりくりしていました。内訳は食費が大半で、他に交際費や雑費などです。意外と高かったのが教科書で、1冊30～100\$ほどでした。

・留学に要した費用総額とその内訳

航空機のチケット代が往復15万ほど、生活費が40万弱、家賃+通信費で32万、その他旅行などで30万ほど使っているの、全部合わせて120万円ほどです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学から奨学金を支給していただきました。Fung Scholarshipsで月に8万円いただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

向こうではJSAという日本人サークルの活動に何回か参加した他、Ashinagaというボランティア・サークルにも参加していました。また、日本語会話クラブ・日本語の授業でのボランティアも行いました。長期の休暇は旅行をしており、感謝祭の休暇にはトロント・ナイアガラ、11月末の週末にはボストン、期末試験後日本に帰国するまでの冬期休暇にはアメリカ東海岸を旅行しました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

Interanational Student Serviceの提供するバディ・プログラムや、Reading Centerなどがサポートとしてあります。ISSの方はあまり活用しなかったのですが、Reading Centerの方はレポートを書く上で添削してもらうなど利用しました。前々から予約しておいて活用するのいいと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は24時間開いており、深夜まで勉強している人も多くいました。スポーツ施設としては無料で利用できるジムがありました。大学構内はwifiが飛んでおり、寮と大学だけならばカナダの通信会社と契約しなくても問題はないと思います。問題があったのは食堂で、大学にいわれる安い大学食堂的なものはありませんでした。経済学部ビルの中にメキシカンと日本食のファストフードが、また曜日や時間帯によっては屋台のようなものは構内にありました。基本的には昼食は持参するまたは寮ないし外の店で食べるというのがほとんどでした。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

自分が本当に何をしたいのか今一度考えるきっかけになった点、ボスキャリアに参加できたという点ではメリットになりました。一方で、日本での秋～初冬の説明会やインターン、選考には一切参加できなかった点ではマイナスでした。ただ、自分の第一志望は官公庁なので、そういった意味ではまだデメリットは少なかったのではとも感じています。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

ボストンキャリアフォーラムへの参加・キャンパスリクルーティングへの参加・skypeを通じて内定者との面談

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

やはり思っていた通り、1か月ほどの短期留学と長期留学では異なる点も多く、カナダの実際や海外で暮らす・学習することについて理解が深まりました。また、自分が今後どうしていくのか、何をしたいのかというのを今一度よく考える大変いい機会にもなりました。自分とは全く異なった人生を歩んできた・歩んでいこうと思っている様々な人々と会えたという点で、留学できたことに大変感謝しています。

②留学後の予定

1月末・2月初頭に法学部の期末試験のうち昨年度以前に履修して単位未取得の科目のみ受験
2～6月民間就活
7月官庁訪問
来年3月卒業予定

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学するのは思い立ったらすぐできるようなものではないので、少しでもしてみたい、あるいは興味があると思ったらすぐにでも調べ始めて、準備をし始めるといいと思います！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 12月 23日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	マギル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

ケベック州、モントリオールを拠点とするカナダの公立大学。カナダ最古の大学であり、国内で最も権威ある大学の一つである。フランス語圏のケベック州内にあるが授業は全て英語で行われる、英語圏の大学である。留学生は全校生の3割弱を占める。

留学した動機

政治学、とりわけ国際政治を専門としていたため、国際政治の中心である北米に位置する大学で学びたかった。また、世界中から幅広く留学生を受け入れており、かつ多文化主義政策をとるカナダにありながら独自のフランス文化保護政策をとるケベックという特殊な環境は、今まで日本で他国の学生と学んだり、多様性を肌で感じたりする機会の少なかった自分にとって刺激的であると思ったから。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	9月~	2017年	12月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	年		年生の		学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	4月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			90	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			0	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

法学部に所属しているため、三年次には必修科目が多くあり、また就職活動への影響も大きくなるため、必修単位をすべてそろえ、また進路も決定した段階で心置きなく留学に集中できる時期として4年の秋学期を選んだ。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

すべてオンラインで申請可能。ただし受け入れ側の担当部署の応答が1か月以上かかることが多いため、メールで質問をしても返信が来ない。必要な手続きに関してはwebinarと呼ばれる生中継のガイダンスがオンライン上で二回ほど開催される。入国関係、保険の申込、住居探しなどかなり有益な情報が提供され、また質問時間も設けられており、リアルタイムで返答が期待できる。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

一学期間であったため、就学ビザは不要であった。ただしカナダ入国に必要なeTAをオンラインで申請する必要はあった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

風邪薬と喉薬は持参した。北米の薬局で売っている薬にはかなり強力なものがあり、なかには中毒になるものもあると聞いており、なるべく使用しなくなかったため。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大が指定している保険と受け入れ大学側が加入必須としている保険の両方に加入した。問い合わせたところ、東大側の保険をもってもう片方を免除することはできないとのこと。(二重に加入することとなる。)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

四年次の最終学期ということで、留学先での成績発表から東大での単位認定までの時間が短いため、留学先で取得した単位は還元できないとのこと(法学部の場合)。よって四年次の夏学期までに必要な単位をすべてそろえてから留学した。教務係の留学担当の方に質問をするのが早い。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

カナダの大学はアメリカよりも英語の必要基準が低く、二年前に取得したTOEFLのスコアがぎりぎり足りていたため新たに試験を受けることはしなかった。しかしWritingが苦手であったため、留学前には東大内で業者をよんで開催しているSELの講座を受けていた。モントリオールは英語も通じるが、フランス語圏なのでフランス語の文法の授業をとっていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

冬場は暖房が効くため室内は寒くないが、かなり乾燥するので加湿器を持って行った方がよい。皿が大きいので茶碗や汁椀を持って行った。防寒対策として日本で買ったコートは分厚いわりには暖かくないので、現地調達したほうがよい。積雪するので長靴も必要。食材に関しては日本のものがアジアスーパー等でわりと容易に入手できるので持参する必要はあまりない。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Canada 1914-1945	3				
Topics in Canadian Politics	3				
Introduction to the Study of Quebec	3				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

教科書あるいは指定された論文が集められたCourse Packというものがあり、毎回の授業で指定された部分を事前に読んでおく必要がある。授業は講義形式の部分とフリーディスカッションの部分に分かれている。週に2回同じ授業があるので、予習を間に合わせるのが厳しいが、1日に2コマであり、17時までには多くの授業が終わるため、放課後に図書館へ行き予習に取り組むのが日課となっていた。図書館は広く、自主スペースも充実しているため利用しやすかった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

3科目、各科目3単位。現地生は一学期に4~5科目履修するのが通常らしいが、コースごとにレベルが違うため、一概には言えない。当初は300番台3つと200番台1つを計画していたが、留学生として300番台3つを同時にこなすのは困難であると感じたため、300番台を2つ、200番台を1つに変更した。同じレベルでも科目により予習に必要な時間が異なる。PoliticalScienceの科目は事前に読む課題がかなり多い。どの科目も中間と期末の2回の試験のほかに、レポートあるいはリサーチエッセイを求められる。

④学習・研究面でのアドバイス

予習をこなすのに慣れるまでが大変だった。空きコマや放課後の一定時間でもよいので毎週かならずこは予習に割くという感じに勉強時間を確保しておいた方がよい。レポートの課題では日本のWordと書式が若干異なるので注意。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

レポートやリサーチエッセイが1500words前後であり、今までの英作文の経験からはかけ離れた字数であった。長い文章を書く時こそパラグラフの構成をしっかり立てないといけないと実感した。字数が多いので思いついたことを順に書いていった課題について、講師から文意不明により再提出を命じられたので、反省した。しかし、回数を重ねるごとに慣れていくものであった。簡単な文法ミスについてはWordのオートコレクトよりもインターネット上で入手できるアプリを利用するとかなり便利であった。大学もWriting Centerを用意しているがかなり混雑していた。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Facebook上にモンリオール市内のルームシェアを探すグループがありそこで見つけた。大学の寮は一年間留学する学生を優先的に受け入れており、また立地、価格が有利なわけでもないの自分で探したほうが安い。ただし早めに現地入りして実際の物件を見てから決断した方がよい(ビデオ通話で室内見学を生中継で提供してくれる大家さんもいる)。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

9月中はまだ汗ばむ日もあり、半袖でも過ごしやすかった。12月に一度積雪すると雪が溶けないまま道に残っているので、ちゃんと対策をした方がよい。メトロとバスがあるが駅が少ないので徒歩で移動することが多かった。外食は値段が高く量も多いので自炊をしていた。チェーンのスーパーマーケットは学生割引も提供しており、大学周辺には多いので便利であった。どこでもクレジットカードが使えるのであまり現金は使わなかったが、市場では現金のみの扱いだった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はかなり良い。大通りを通って帰れば深夜でも特に怖いとは思わなかった。利用しなかったものの、病院はかなり待ち時間が長いらしい。ジムには通わなかったが、毎日片道20分ほど通学で歩いたり、自炊したりすることが気分転換になった。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃:750CAD+光熱費20CAD前後/月、食費:100CAD/月(自炊ベース)、娯楽費:30CAD
※1CAD=90円

・留学に要した費用総額とその内訳

60万円前後

航空賃:往復20万円、授業料:なし(交換留学のため)、教科書代:120CAD、家賃と光熱費:3080CAD、食費:400CAD、娯楽費:120CAD

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Fung Scholarships 8万円/月
東大の本部国際交流課からの紹介

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

美術・博物館見学、バスでトロント・オタワ・ケベックシティ旅行、学生団体主催のイベントに参加など

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生の担当をしている部署があるがあまり役に立たない。ただし留学生同士の交流イベントやガイダンスなど有益なイベントを開催していることがある。語学についてはWriting Centerがあるが混雑しているので余裕をもって利用したほうがよい。友人を作ってチェックしてもらうのが一番だった。北米の大学なのでメンタルサポートなどかなり充実しているようだが利用しなかった。学科ごとにチューターがいるが、現地生向けな面も多い。学科ごとの学生団体が主催する試験勉強の仕方を教える会のようなものもあった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は複数あり、静かさ、飲食可など目的別に選べる。広くて電源も完備しており、また開館時間も長い(試験期間中は24時間営業)ためかなり使い勝手が良い。食堂というよりも軽食を扱っているカフェや購買ならあるが、タッパーに昼食を持参したり、大学前の日本食屋に行ったりした。キャンパス内はWifi完備。無料の充電スポットもある。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

学内向け、受け入れ先大学向けの書類の作成と就職活動が同時進行だったので頭を切り替えるのが難しかった。これから留学することは特にアピールにはならない。むしろ入社式に参加できなかったり、留学先で内定者の課題をこなす必要があるため、デメリットが大きいかもしれない。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

東大とまるで授業の形式が異なり、学生の勉強に対する姿勢も驚くほど真摯だった。大学というところがどういうところなのか、学問というものがどういうものなのかを改めて確認した。今まで自分が積み重ねてきたものがそのまま通用せず、落胆することもあったが、決して無駄ではないということにも気づいた。言語の壁は薄くはないがそのために外の世界を見ることを敬遠するのはもったいないと思った。

②留学後の予定

帰国後は卒業式まで特に予定はないが、英語力が落ちないようにフォローをしつつ英語能力試験を受けようと考えている。
東京大学公共政策大学院に進学予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

事前に日本で勉強していた英語と現地のネイティブの学生が使う英語の落差に驚き、落ち込むこともあるかもしれませんが、ちゃんと伝える意思があれば相手も耳を傾けてくれます。言葉が出てこなくても取り組む姿勢が重要なのだと思いました。実際、講師の方々も留学生については文法ミスなど些細な点よりももっと大枠を意識して評価しているとのこと。Disadvantage だけに目を向けてばかりでは楽しいことも楽しめなくなってしまいます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

www.canada-ryu-gaku.com/
studyincanada.ciao.jp/

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年1月31日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	McGill University
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界:総合商社)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

ケベック州モントリオールにある総合大学。カナダの大学ランキングの中で常に上位3位に入る。カナダの大学の中ではスポーツが盛んで強く、学生の愛校心も強い。留学生が非常に多いのでカナダ人学生もそれに慣れている上、同じ境遇の仲間を見つけやすい。

留学した動機

元々帰国子女で、帰国以来日本に窮屈さを感じる場面があって海外に出てみたいと感じていた上、好奇心が旺盛な方で色々な経験を積んでみたい、誰も知り合いがないところで生活したいという思いがあったため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	8月~	2017年	12月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	年		年生の		学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	6月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		82	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		6	単位	
	留学後の取得(予定)単位		6	単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

運動会部員で引退するまでは留学に行かないと決めていたこと・大学は4年で卒業しようと考えていたため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学先大学から来る案内を見ながら。難しいことは留学生担当のオフィス(Service Point)にメールで聞いた。返信に1,2週間かかるので要注意。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

半年以内の滞在なのでオンラインでeTAのみ取得、観光ビザをモントリオール空港で発行してもらった。eTAたいの場合即時に取れる。
アメリカを経由する場合ESTAというものをオンラインで取得する必要あり。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯科のみ。モントリオールでは医療費高額+保険会社の対応もいまいちで保険に入ってもかかった医療費が返ってこないこともある+ものすごく待たされるので体調管理は気を付けましょう。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大から案内された東京日動火災保険のものと、McGill UniversityのInternational Health Insurance(どちらも必須)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

ゼミの単位分割申請のみ

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

就職活動で忙しかったので特にしていない。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

常備薬。靴下。日本食。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Intro to Organizational Behavior	3	●			
International Business	3	●			
Intro to Study of Quebec	3	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

双方向型の講義・指名やディスカッションありの授業が多い。毎授業教科書の指定ページを読む・読んだ感想を掲示板に書き込むという宿題が出る。
授業の中で企業のリクルーターを呼んで就職関連のイベントしたりポットラックパーティーをしたりしたIntro to Organizational Behaviorは印象的。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

3科目・6コマ/週、3単位/科目、2-5時間/日あたり勉強時間

④学習・研究面でのアドバイス

わからないことやついていけないことは教授にメールで相談すること。とても親切に助けてもらった。向こうの教授は学生の力になろう、自らを利用してほしいという精神が旺盛だった。(どの教授も)

⑤語学面での苦労・アドバイス等

特になし。ネイティブアメリカン・カナディアンとのミーティングは苦労した。(スピード面)また、Quebecois(ケベック州生まれのカナダ人)はフランス語が母語で、Quebecois2人+私になるとフランス語で会話されたのがつらかった。(きちんとやめてほしいと伝えればやめさせられるので大丈夫)

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

日本人女性のアパートの1室を借りていた。月\$520と、周りの留学生に比べぐっと抑えられた。Classifiedという地元情報掲示板サイトの様などで見つけた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

10月中旬まで半そで、そこから2週間でダウンコートが必要になるなど、天気は全く読めないで服は現地調達するのが良い。日本の秋服とスニーカー1足で十分。
モントリオールは小さい街でメロでどこにでも行ける上、治安も良い。
お金はほぼクレジットカードしか使わず、現金はカフェや協会のバザーに行くときのみに使った。チップ文化があるので小銭は持っておくと良い。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特に問題なし、何もしていません。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃約5万、生活費約10万(モントリオールは食品が日本の1.5倍の値段な上、消費税も20%近いため自炊してもこの金額です)

・留学に要した費用総額とその内訳

15万×4か月+航空費14万+雑費10万=84万
家賃が7万から12万のところに住んでいたりと、旅行に2,3回行ったりしていると余裕で100万超えます。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

月5万円、大学から頂いていました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

10月に一度トロントに行ったのみ。色々なサークルが主催するイベントに行ったがサークルに入りはしなかった。ジムにほぼ毎日通っていた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

利用しなかったが、サポート体制は手厚い。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

どこも綺麗で整備されているが、カフェテリアは電子レンジが汚れていて衛生的ではない上、売っている食べ物もお菓子の様なものばかりであった。ジムは綺麗なうえ、様々な設備があるのでお勧め。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

特になし。内定先に書類をモントリオールまで送ってもらったり、面談をSkypeでしてもらったり配慮をもらった。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 |
| <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公的機関(機関名:) |
| <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(企業名又は業界: 総合商社) |
| <input type="checkbox"/> | 6. 起業(分野:) |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語のスピーキング力の向上・留学中のコミュニケーションのトラブル、思わぬ怪我などへの対応を一人で英語で行ったことから自信がついたこと・中国や韓国の学生の勢いを間近で感じ危機感を抱いたことが留学中の収穫です。

②留学後の予定

総合商社へ就職。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学中は小さな嫌な事(周りについていけないとか中国人と間違われて「ニーハオ！」と大声で言われるとか)がありますが、そういう経験を逆に貴重と捉えて楽しみ、逃げないことや普段関わらないような人と関わるとか新しいことを始めるとかすると帰って来た時に「行って良かった」と思えると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

前年度派遣された友人とのLINEグループで情報を教えてもらえると安心。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。